課題の概要

- 地域再生人材養成ユニット名 「土佐フードビジネスクリエイター人材創出」
- 総括責任者名 「相良 祐輔」
- 提案機関名 「高知大学」

地域の現状と地域再生に向けた取組状況

高知県は豊富な農産物を生産している地域でありながら、生鮮出荷に依存した産業構造が原因で、国内、国際競争力に乏しく、経済的に脆弱である。この状況を打開するために、生産、加工からマーケティングまでの専門的かつ包括的な知識を有する食料産業中核人材を養成することが急務の課題である。一方、提案機関では地域企業、自治体との連携を深め、高知県食料産業クラスター協議会を立ち上げ（平成19年度）、地域食材を活用した高い付加価値を有する加工食品の開発を進めている。参画自治体（高知県南国市、香美市、香南市）も本協議会のメンバーとして活動しており、地場企業の振興策を積極的に展開している。

地域再生人材創出構想

目標とする人材は、食料産業の中核を担える「フードビジネスクリエイター（FBC）」である。さらに経営者感覚を身に付けた農業従事者の育成、理系の教育を受けていない食料産業従事者のスキルアップを目的に、3つのクラスの教育プログラムを作成する（上級、FBC-A；中級、FBC-B；初級、FBC-C）。本事業で実施する「とさFBC養成プログラム」は7つのカテゴリーから構成されており、「食品製造・加工」、「マネジメント」などの4つの座学と共に、2つの技術習得メニューである「実験技術」、「現場実践学」、さらに各企業の課題解決・商品開発をOJTで実施する「課題研究」から構成される。座学及び実習の指導には現役の本学教員と公設試験研究機関の研究員が当たるが、課題研究や実験技術の習得には、地域の大学、公設試験研究機関を退職した研究者が、スーパーバイザーとして専任で指導に当たる。5年間のプログラムで延べ80名のFBCを養成するが、その中で地域への就職を希望する本学学生にも受講を積極的に勧め、地域企業への就職を促進する。本プログラムの受講生は地域の食料産業を支える中核人材として活躍することに加え、本事業終了後に立ち上げるNPO組織の支援にも積極的に関与する。

自治体との連携・地域再生の観点

参画自治体は、農業の高付加価値化や食品関連産業の振興に資する中核人材の育成を地域再生計画に掲げており、本事業の育成プログラムへの参画が地域再生計画の推進そのものに位置づけられる。具体的には本事業の運営方針の企画・検討や養成者・業務従事者の選考、活動評価を行う企画運営委員会に参画し、地域再生や地域、企業における課題解決の観点から積極的な提案を行う。豊富な農産物を加工食品化して高い付加価値を生み出すことが地域のニーズであるが、各企業のニーズについては、課題研究のテーマの掘り起こし段階で把握することができる。地元企業からは受講者の積極的な派遣と、課題研究への積極的なテーマ提案、並びに本事業終了後に立ち上げるNPOへの財政的な支援を要請している。

ミッションステートメントの概要

3年間のプログラムで延べ40名のFBC（FBC-A 10名、FBC-B 15名、FBC-C 15名）を、事業終了時には延べ80名のFBC（FBC-A 20名、FBC-B 35名、FBC-C 25名）を養成する。5年後には、この事業を独自に運営するために企画運営委員会が母体となり、高知県食料産業クラスター協議会との連携に基づき、食料産業人材育成を目標としたNPO組織を立ち上げる。本プログラムの受講生は地域の食料産業を支える中核人材として活躍することに加え、本事業終了後に立ち上げるNPO組織の支援にも積極的に関与する。